

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和5年6月19日(月) 13:00~15:00
- 3 開催場所 長良特別支援学校図書室
- 4 参加者

会 長 委 員	竹村 真紀	長良医療センター主任児童指導員	
	安藤 由美子	長良園芸	
	嶋崎 喜代美	長良東公民館主事	
	齋藤 尚子	PTA会長	
	平山 由美	PTA副会長	
	市川 百香里	重症心身障がい在宅支援センターみらい	
	小酒井 明美	難病生きがいサポートセンター	
	下平 悦子	長良医療センター医療社会専門員	
	学 校 側	広井 隆司	校長
		井上 真典	教頭
	堀 美和子	事務長	
	佐野 幸弘	小学部主事	
	芦田 友味子	中学部主事	
	河田 恭子	高等部主事	
	寺澤 康德	教務主任	

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 学校運営基本方針について

- ・学校運営協議会の位置づけについて説明、今年度の学級編制、校務分掌組織図の説明
- ・令和5年度版 長良特別支援学校の働き方改革と共生社会・共創社会の実現に向けた教育実践の在り方について説明

意見1：時代に応じた働き方については自分も常に考えている。体調を崩すと身体だけでなく心にもストレスがかかるが、自分では意識できないこともある。経営者として働き方改革に取り組み、職場の人も有給休暇をきちんと取得できるようにと考えている。心も体も健やかに、健康寿命を延ばすということを仕事を通して実践している。みんなが生きやすい地域づくりのために役割を果たしたい。

意見2：10年後を見据えた教育実践が考えられており、先の先を見通して計画されているということが素晴らしくこのように計画通りに進めばよい。私たちにできることがあれば協力していきたい。

意見3：働き方改革について、いろいろな立場から考えながらやっている。それぞれの家庭によって事情が異なる中で、バランスをとりながらPTA活動をやっていくことは難しいこともあるが、楽しく取り組みたいと考えている。

意見4：10年後を見据えた教育の大切さを実感している。小学部の頃は元気に行ってくれて今日一日楽しかったということがよかったと単純に思えていたが、中学生になった今、先を考えることの大切さを感じている。今何をしておいたらいいのだろうかという考え方に変わってきており、先を見据えて考えること大切さを実感している。

意見5：共生社会といっているが、地域で生まれた子どもたちがなかなか根づいていない部分がある。少子化だが医療的ケア児は増えている。また、病気も複雑になってきている。在宅に移行してくるお子さんたちとかかわるが、毎週のように病院からケース会議の依頼が来ている。その子たちがあと3年すれば就園、さらに3年経ったら就学を迎えることになる。その子たちのためにも、何年か先を見据えて考えていくことが大切だと感じた。また、高等部卒業が近づくと新たな不安が出てくる場合もある。そのような保護者の思いもくみながら私たちは考えていくことができるとよいと感じた。

意見6：時代がどんどん変わってきていて、医療的ケア児は増えているし医療も進歩している。コロナ感染症対策が進む中で、在宅就労が進んだ。この学校を5年後10年後に卒業していく子どもたちが、少しでもそういうところに携わることができるように教育でできることがあるとよい。「親なき後」というテーマで講演会をしたところ保護者の参加が多かった。そういうニーズも取り込んでもらえるとうい。

意見7：病院でも、子どもの入所者が減ってきているが、少ない人数でもできることをやっていくという考え方は参考になった。医療的ケア児が通学するにあたって学校に看護師が配置されていることの安心感は大きい。呼吸器をつけている方も通学して授業を受けることができるのはとてもよい。

意見8：これからの教育実践の中に個別最適化ということがあったが、この学校の個別的な対応の良さは病院でも実感している。学校から病院が教えてもらって、病院で工夫することを検討したり学校と連携したりすることができているので、今後もお互いの強みを生かしながら連携していきたい。

医療現場で子どもの相談を受けていて感じるのは、子どもは成長に伴って支援する人が変わっていくし、成長の節目で相談や課題が変わっていくということである。児童生徒自身の生きる力・社会につながる力をつけていくことが大事である。卒業後の生活に向けても力を合わせて取り組んでいきたい。

## (2) 教育活動の実際について

- ・小学部の教育活動について
- ・中学部の教育活動について
- ・高等部の教育活動について

意見1：高等部卒業後の居宅訪問型の療育的なサービスは現在制度がない状態だが、事業所は有料でのサービス提供も検討しているところである。

意見2：高等部で過年度卒業生を受け入れていることを知って、やさしい社会の一つの表れとして感動した。制服廃止、髪型も自由にする等の取組をしている学校の話も聞くので、人として生きやすい社会になってきているように感じている。

## 6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、参加全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。また、校務分掌や各部の取組状況等について肯定的な意見や今後の改善に向けてそれぞれの立場から多くの意見を得た。
- ・第2回では、より具体的な取組について取り上げ、その取組の経過を報告する。

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月6日(月) 13:00~15:00
- 3 開催場所 長良特別支援学校プレイルーム
- 4 参加者

会 長	竹村 真紀	長良医療センター主任児童指導員
	安藤 由美子	長良園芸
委 員	嶋崎 喜代美	長良東公民館主事
	齋藤 尚子	PTA会長
	平山 由美	PTA副会長
	市川 百香里	重症心身障がい在宅支援センターみらい(欠席)
	小酒井 明美	難病生きがいサポートセンター
	下平 悦子	長良医療センター医療社会専門員
学 校 側		
	広井 隆司	校長
	井上 真典	教頭
	堀 美和子	事務長
	佐野 幸弘	小学部主事
	芦田 友味子	中学部主事
	河田 恭子	高等部主事
	寺澤 康德	教務主任

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 各部より教育活動の報告

- ・小学部の教育活動報告
- ・中学部の教育活動報告
- ・高等部の教育活動報告

意見1: スライドから楽しそうな様子が伝わってきた。個別に活動を工夫されており、院内での活動の参考にしたい。

意見2: 外来で見かける子どもたちがスライドの中に見られたが、学校では様子や表情が違う。学校での刺激や学ぶことは大事であり、子ども同士のかかわりが力を持っていると感じた。工夫された活動を通して子どもたちは隣にいる人と一緒に取り組んでいるということを敏感に捉えている。

意見3: 子どもが修学旅行で郡上に出かけた。コロナ禍で難しい環境の中でも最大限に行ける場所の検討や活動設定をしてもらい、制作活動や昼食を摂るといった活動に取り組む

ことができた。いつもと違う環境に行き実際に活動させてもらったことで、多くの物を得ることができた。

意見4：子どもが校外学習で木遊館に出かけた。学校生活とは違う経験をすることができ、刺激になった。また、これまでは保護者送迎による現地集合が多かったが、バスに乗って行くことができたことをすごく喜んでいて。プライベートでは自家用車で移動しがちだが、本人の喜ぶ様子から、そういう交通機関も使わなければいけないと思った。

(2) 「教育活動に関するアンケート」集計結果の実際について

- ・全体の回答数及び回答傾向について報告
- ・各設問項目について、回答結果の分析と改善策について説明
- ・設問項目の中であまり評価がよくなかった「学校の施設・設備」について、来年度の大規模改修で改善を図ることについて、改修内容や工期を示して説明

意見1：普段の学校の様子が分からないが、教職員の方々が児童生徒の身になって指導されていると思う。保護者はいろいろな思いがあると思うが、外から見た私たちからすれば、生徒のために精一杯取り組まれており良い。

意見2：PTA活動について、先日PTAの日に保護者とパスタリースづくりを行った。活動の目的は、日々忙しく過ごす保護者が肩の力を緩められることである。自分を癒し、型にはまらず自由に楽しく取り組み、無心になることができる時間を提供したいと考えている。また、活動を通して最近の様子や出来事についての会話ができる貴重な時間だと考えている。自分で抱え込まずに共有する、普通では知りえない知識や情報を互いに交流することで、新たな気付きが得られると思う。今後こうした機会がいただければ協力していきたい。

意見3：今年から運営協議会に参加させていただき、病弱の学校であるという認識がありながらも、改めて学校のことがよく分からない状態で、アンケートについては自分が学校を評価することに申し訳ない気持ちもあり、分からないという項目に多く回答した。

(3) 学校の課題について

- ・学校東側の自然環境保全地区にある枯れ木の現状と対応の経過について説明。
- ・今後しばらくの間は校舎の新築等が難しく、来年度の修繕も含め、古いながらもあたたかな学校づくりを目指すことを説明
- ・周囲を森などの自然に囲まれた環境にあり、これからもその影響を受けることもあるため、解決につながる助言を求めた

この事項に関する各委員からの意見等は特に無し

(4) 作業製品の価格について（作業製品価格審査会）

- ・中学部、高等部の部主事より、商品と価格（基本的には原価との兼ね合いで設定）や販売対象は教職員及び保護者であることについて説明
- ・高等部製品については、来年度に実施される総合文化祭でも販売予定であることを説明

意見1：中学部製品のスマホスタンドは今どきの製品である。市場価格はもう少し高いので、材料費との兼ね合いはあると思うが、値段はもう少し高くてもよい。

意見2：高等部製品のレザーケース、ハーバリウム、ポチ袋は価格を上げてよい。

(5) その他、全体を通しての意見

意見1：高等部の教育活動の報告にも関わることで、以前に卒業後の支援について相談を受けた。県の事業で、在宅療養患者の応援員という形で県の予算にて県内で登録された有償ボランティアが何百人とおお、その方に対応してもらおうという取り組みがあったが、来年度には予算が切られてしまうかもしれないので、提案することができなかった。コロナ禍になってから、重度障がい者に限った完全在宅の就労支援を始めている。その企業と話をする中で、特別支援学校でもそういう取り組みを通して企業につながるができるという提案を受けたので、今後その話をさせていただきたい。

6 会議のまとめ

- 第2回学校運営協議会では、各部の教育活動の報告を通して児童生徒の実態や当校の教育活動についてより具体的な様子を知っていただくことができた。また、学校アンケートの集計結果や学校周辺の自然環境への対応についての取り組みの説明を通して、当校の現状や課題についても理解が得られた。各委員からはそれぞれ概ね肯定的な意見をいただいた。作業製品価格審査会については、当校の製品について良い評価をいただき、それに見合った価格設定を行うよう助言を受けた。
- 第3回では、学校アンケート等から得られた当校の課題に関して、その後の改善の取り組みについて進捗状況等の報告を行うとともに、来年度の方向性についての説明を行う。

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月7日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 長良特別支援学校プレイルーム
- 4 参加者

会長	竹村 真紀	長良医療センター主任児童指導員
委員	安藤 由美子	長良園芸
	嶋崎 喜代美	長良東公民館主事
	齋藤 尚子	PTA会長
	平山 由美	PTA副会長(欠席)
	市川 百香里	重症心身障がい在宅支援センターみらい
	小酒井 明美	難病生きがいサポートセンター
	下平 悦子	長良医療センター医療社会専門員
学校側	広井 隆司	校長
	井上 真典	教頭
	堀 美和子	事務長
	佐野 幸弘	小学部主事
	芦田 友味子	中学部主事
	河田 恭子	高等部主事
	寺澤 康德	教務主任

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 各部より教育活動報告・年間反省

・小学部、中学部、高等部それぞれの重点目標に沿った説明

意見1: 児童生徒にとって一日の生活の中で授業の時間が多く占めている。一人一人の様子から病棟での療育活動の参考にしている。卒業後のことなど課題もあるが、病棟生については引き続き学校と相談をしていきたい。

意見2: 仲間とのつながりやリアルなふれあいが戻り、学校の活発な様子が嬉しい。教職員は専門的な知識、発想、センスが豊かで、児童生徒の様子を丁寧に感じ取り一人一人に合った支援に生かしている。卒業後の不安に対することにも学校は迅速に動き、パイプ役として即時対応している。私の会社も一企業として特別支援学校から実習を受け入れている。互いに意見交流をし、できることや成長につながる支援をしていきたい。

意見3: 公民館に学校だよりを設置し、地域にもこの学校の存在が浸透してきている。公民館だよりにも本校の様子を掲載予定である。利用者が特別支援学校に興味をもち力になりたいと言っている。これからも支えになりたい。

- 意見4：学校ではきめ細かい指導、教育をしている。卒業後も進路先と連携、引継ぎをしてもらえ心強い。卒業してもまだまだ成長してほしいのが親の願いである。
- 意見5：私は就学前の相談に携わっている。児童生徒は学校へ通い始めると笑顔やサインが出て、その姿に本人だけでなく親も一緒に安心するのではないかと。地域の医療従事者は学校で行っている内容を知らないため、一人一人に合った教育をしていることなど、学校側からの発信が大切。卒業後のカレッジのようなところがあるとよいのではないかと。このことを関係機関に発信していくとよいのではないかと。
- 意見6：難病で成人の方に対して、教育と福祉と医療がつながりきっていない。一般の高等学校に特別支援学校コーディネーターがかかわっているように、成人に対しても、もっと密に連携を図る必要があると感じている。
- 意見7：学校ではいい経験ができています。依頼する力や相手を受け入れる力などその子自身が持っているちょっとした生きる力が大切である。生徒のニーズが地域に伝わり、制度につながっていくような発信が今後できるとよい。学校が発信していることに病院も連携していきたい。

## (2) 各校務分掌より年間反省

- ・各分掌の反省を担当部主事より説明

## (3) 意見・感想

- 意見1：学校が様々なことに取組んでいる事例から、病院での取組みを振り返るきっかけとなった。児童生徒とのかかわりだけでなく、そこで生活している人や地域の人とのつながりを考えさせられた。
- 意見2：就学前から就学後の児童生徒の変化が分かった。就学後、児童生徒には自己肯定感が芽生え、それが本人の生きる力や体と心の成長、安心感、幸福感につながり、やがては明るい地域にもつながっていく。そのためにも児童生徒の健康と学校生活での安全・安心が基本である。
- 意見3：地域として、病気や障がいの方が重度の方に関しての橋渡しが何かできないかと思う。学校で学んだことがどこでも生かされる地域社会になるとよい。
- 意見4：長良地区にある小中学校の方、地域の方にも少しずつまた学校に来ていただき、交流を深めていけるとよい。
- 意見5：医療的ケア児の校外学習充実事業については課題が大きい。  
また、PTA役員の活動が保護者の負担とならないように学校の支援を続けてほしい。自分の立場からも学校と地域をつなぐために連携していきたい。働き方改革を進め、教職員が明るく元気に、次の世代を担う教職員が増えていくとよい。
- 意見6：自分はコミュニケーション支援機器の貸し出し業務を行っているが、今後更に使い方など情報を共有して広げていきたい。
- 意見7：学校は、児童生徒が通うという意味だけでなく、地域にとっても必要な社会資源である。学校での取組みが保護者だけではなく、関係している地域に伝わり、つながることに意味がある。地域と学校が切磋琢磨しながら発展させられるよう連携していきたい。

## 6 会議のまとめ

- ・限られた時間ではあったが、学校の取組みに肯定的な意見が得られた。生の声を伝え合うことは教育の原点でもある。来年度以降も意見交流やつながりを続けていきたい。
- ・学校からの情報発信が十分でないところもあった。本校の教育活動や児童生徒の頑張っている姿、成長を発信しつつ、本校の果たす役割を考えていきたい。